

初芝富田林

学校動画を公式HP
「shigaku.net」で
公開中!



▶放課後に実施している「はつとんゼミ」は、大学入学共通テストから国立2次試験対策まで、合格する答案力を養う校内予備校。中3～高3を対象として、有名大手予備校から経験豊富な講師を招いて開講。同校教員と講師が情報共有している。



Interview★

学習環境だけではなく クラブ・同好会も新しく！ 新しい初富(はつとん)について 生徒にインタビューしました

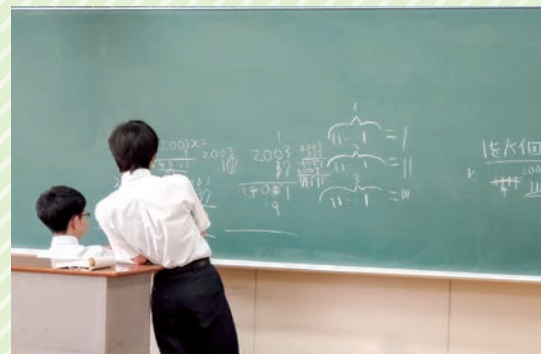
「ダンス同好会は、今年発足した新しい同好会。同好会会長として、もっと盛り上げるために、自分自身が思い切り楽しむようにしています。また、朝読書で本に触れる機会ができて、とても良いと感じています。『サイエンスルーム』『数楽研究会』などで、自分の興味のあることを探究できる環境が整いました。生徒会も発足すると聞いており、立候補するつもりです」
(高2・ダンス同好会会長)

ダンス同好会



「超進学校化宣言」、先生同士、生徒同士、 先生と生徒の壁を越える

▶『観光甲子園』(写真)への参加を機に、地理・歴史・政治経済など、ジャンルを超えた『社会の探究教室』を発足。『観光甲子園』は、全国の高校生を対象として、インバウンド観光とアウトバウンド観光をテーマに、観光資源のアピール力を競う、校外の取り組みです。フィールドワークで生徒たちが目を輝かせるのを見て、彼らの熱意を受け止める場をつくりたいと考えていたところ、他教科の先生の動きを目的の当たり前に『社会の探究教室』を開講しました(社会科・浦上貴之先生)



◀数学科は、放課後の勉強会『Math Friends+(マスマフレンズプラス)』『数楽研究会』を実施。『Math Friends+』は、数学が苦手な中学生を対象に週2回実施。教室に教員が当番制で待機し、寺子屋形式で指導します。『数楽研究会』は、数学が得意な生徒を対象に、授業の先取りや発展的な問題に挑戦するなど、チャレンジングな集いになっています。『理科が取り組んでいる『科学の甲子園』に協力するなど、教科間で連携も図っています(数学科・中村祐輔先生)



英語部

「英語部は、これまで中高別々に行動していましたが『イングリッシュルーム』ができてから、中高合同でこの部屋を拠点に活動しています。英語部のモットーは、『楽しみながら英語力をつける』こと。部活動を通じて『英語って楽しいよ!』を伝えたいです」
(高2・英語部部長)



「朝読書」は、授業開始前の10分間で実施。タブレット端末を活用して、電子図書館で読みたいものを借りて読む生徒も多い。「朝読書を通じて、本を読む楽しさを知ったという生徒も多く、効果を感じています(国語科・前 富子先生)

新しい「初富(はつとん)」は 予想を超える可能性に 満ちている



▲英語4技能を高める取り組みのひとつ『オンライン英会話』は中2・中3で実施。フィリピンとパソコンでつなぎ、最初は定型文を用いた簡単な会話からスタート。慣れてくるとフリートークにも挑戦。ネイティブ教員による英会話の授業と交互に行っている。



▲楽しみながら英語に親しむ『イングリッシュルーム』。「実践的な英語力を高めるための環境をと考え開設。人気マンガの英語版や英字新聞、洋書がいつでも読め、洋画を字幕なしで観る鑑賞会や、英語でプレゼンテーションをする機会を持つなど工夫しています。放課後、毎日開放しています(英語科・藤田信乃先生)



◀主要5教科に関して、習熟度別にICTを活用したアダプティブ・ラーニングで自主学習ができるシステム。予習・復習に活用できるだけでなく、つまづきを克服するための類似問題の出題もある。テスト結果はデータとして蓄積し、生徒指導にも活用。

「超進学校化宣言」のもと学校改革を推進 “なりたい自分”になれる学校へ!

2020年度の大学入試改革や中高における新学習指導要領の本格的な実施など、日本は今、大きな教育改革のときを迎えています。これらは、グローバル化や技術革新の進展などにより、社会変化の予測が困難な時代に生き抜く力を育むための改革です。この流れに対応するため、教育の現場でもさまざまな改革が進んでいます。

2018年より初芝富田林は規模な学校改革に取り組んでおり、2019年には東京大学3名合格をはじめとした難関大学合格者を多数輩出させるなど大きな結果が表れ、注目を集めています。学校改革のテーマは「超進学校化宣言」です。

「超進学校化宣言」とは、生徒の個性を開花させ、「本当に行きたい大学に合格できる学力」を身につけ、「未来を切り拓く力」を養う学校に進化するという思いが込められています。具体的には、『チーム初富(はつとん)』と銘打ち、全教員が連携・協力をして生徒をサポートし、さまざまな取り組みを行ってきました。2019年からは、予備校との連携による校内予備校『はつとんゼミ』の開講や、ICTを活用した学習などの取り組みが始まりました。

一体感のある、充実した人間関係からは、前向きな意見や良いアイデアが浮かぶもの。国語科では、電子図書館のスタートやビブリオバトルの活発化を実現。社会科は、『観光甲子園』への参加と『社会の探究教室』を発足しました。英語科では『オンライン英会話』の開始と『イングリッシュルーム』の開講、数学科は『数楽研究会』『Math Friends+(マスマフレンズプラス)』を開くなど、授業外の活動も活発に展開しています。

これらは「大学受験だけにとらわれない学びの場」で、興味・関心を探求する喜びを生徒と共有したい」という教員の熱い思いの表れです。その思いは生徒の心に届くもの。進学校としての基盤がある同校に「超進学校化宣言」という新しい風が吹き、それが近年最高の大学合格実績につながったと言えそうです。育まれているのは、学力と共感性、探究力、共創力、感動力という、総合的な「人間力」なのでしょう。

2

020年度の大学入試改革や中高における新学習指導要領の本格的な実施など、日本は今、大きな教育改革のときを迎えています。